

本の案内 NO.45



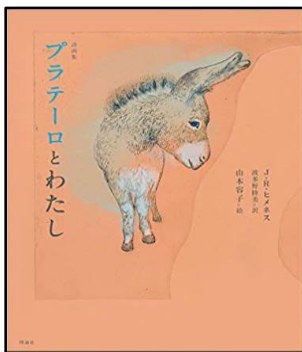
みなさんお元気ですか？ 本を読んでいますか？ 図書館や本屋さんが閉まっており、満足に本を手に入れられない状況だと思います。残念です。そんな中ですが、本校に入った本などを紹介しておきますね。学校が再開したとき、あるいは本を手に入れることがあったら参考にしてもらえれば…と思います。



←『あたしたち、海へ』 井上荒野
中学二年生の有夢と瑤子。そして、海。彼女たち三人の苦しみ…いじめがあって読むのが少し辛いなぁと思いつつも、なぜかぐいぐいひっぱられ、最後には「ペルー！」と叫んで笑えます。



←『日本語をつかまえろ!』 飯間浩明
国語辞典の編さん者が、身近にあって気になる言葉を大追跡。わいわい言いながら帰る…って言うけれど「わいわい」とは言ってませんよね。



←『プラテロと私』 J・R・ヒメネス
スペインの詩人による散文詩。かわいいロバのプラテロと私、それから小鳥と花。美しい詩と絵に癒され、哀愁を感じます。ヒメネスはノーベル文学賞受賞。



←『おやつが好き』 坂木 司
『和菓子のアン』の著者によるお菓子に関するエッセイ。和菓子洋菓子、しょっぱいもの…どれも美味しそう。短編もあり。



←『いいから黙ってろ!』 竹宮ゆゆこ
大学を卒業した富士。卒業後すぐ結婚するはずだった婚約者に振られ、就職先も住む所もなくしてしまう。途方に暮れた彼女が出会ったのは、社会のはみ出し者が集う弱小劇団だった！



←『源氏物語』 砂崎 良
マンガでわかる…となっていますが、マンガで物語を描いているのではなく本文やコラムも使い平安時代の人々の感性や時代背景を知ることができる。



←『本にまつわる世界のことは』
本や読書に関する世界の言葉を集め、7人の作家や翻訳家たちがショートストーリーやエッセイを書いたもの。



←『この夏のこともどうせ忘れる』 深沢 仁
高校の夏休み…大人でも子供でもないこの思いもいつか忘れる。少し暗く濃いめの夏休みの日々。5つの短編です。

新刊ではありませんがこんな本もおススメ。

- ・『ペスト』(カミュ著) ←1940年代フランス領アルジェリアのオランという商業都市で、中世ヨーロッパに流行ったペストが再び蔓延したという設定で書かれた本。オランは封鎖され、人々はどうになってしまうのか…。今のコロナ禍の状況と似ていると話題に。1947年に出版された本です。
- ・『「感染症パニック」を防げ』(岩田健太郎 著) ←被害拡大を防ぐために知っておきたいこと。2014年出版。